

リサイクル素材を応用した工作キットの開発 及び造形ワークショップの実践 ー造形教育における創造力を育む理想的な 学習支援プログラムについてー

造形短期大学部
造形芸術学科
准教授

森下 慎也



研究シーズの紹介

様々なワークショップのニーズが増えている中、より有益な取り組み方が模索されています。

この研究の取り組みは、造形教育が社会の様々な場面で有益に活用できることを目的として、梱包資材である段ボールの応用し、その素材を加工する企業と、プログラムを実施する各種施設、企画準備する大学教育が機能的に連携する方法を模索しました。また、コロナの影響で遠隔でのワークショップ

の取り組み方が、新たな課題として出てきました。これらの実績の主な活躍の場として、夏休みや冬休み期間の、学習イベントや、親子の触れ合いをテーマとしたイベントでの取り組みがあります。

今後の展開として、貧困・教育格差・児童保育などの児童の学びの場への活用へ展開していきます。



ワークショッププログラムの 実践教育

- 産学連携で、より実践的な学習と経済的な貢献が可能です。
- リサイクル率の高い素材で、学びのサイクルの精度を上げます。



イベント企画を通して、プログラムの計画、工作キットのデザイン、参加者のコミュニケーション能力の向上を目的とします。

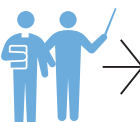


制作する工作キットやイベント用のオブジェは、工場で生産します。実際に生産する場所で、合理的で実践的な学びを体験します。



期待される活用シーン

- 学習イベントを企画したい
- 工作物のアイデアが欲しい
- スタッフが欲しい



産学連携することで効率よくイベント企画を進め、社会のニーズに応えることができます。



- 児童と触れ合う体験がしたい
- イベントの仕事をしたい
- 工作キットの開発がしたい
- 造形教育の経験を積みたい



教室の中だけでは得にくい、現場での実体験の学習をすることができ、就職につながる可能性を得ることができます。



その他の研究テーマ

産学連携による能動的な問題発見・解決型教育に関する研究
経済的な貧困と教育格差の改善に関する研究